

シンポジウム「教材としての杜甫の詩」

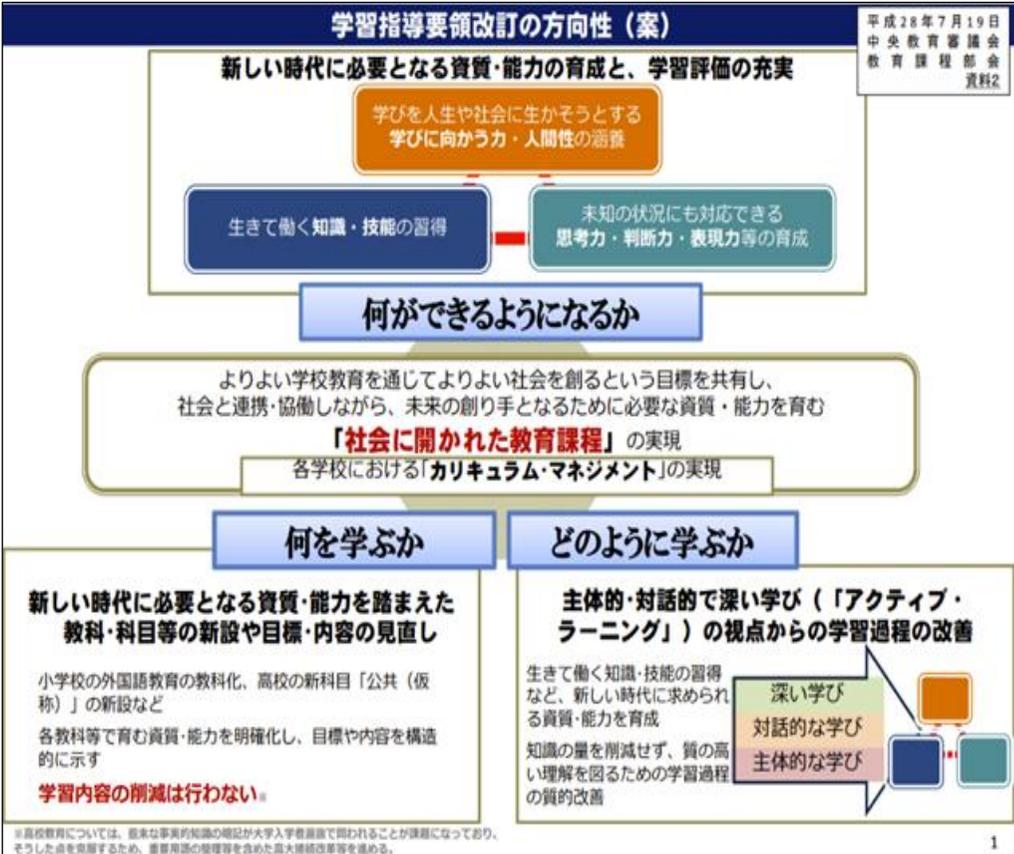
「高等学校『言語文化』『古典探究』における杜甫詩を扱った実践」

神奈川県立総合教育センター 潮田 央

一 はじめに

- ・学習指導要領における学習内容の扱い
- ・言語文化の授業実践
- ・古典探究の授業実践

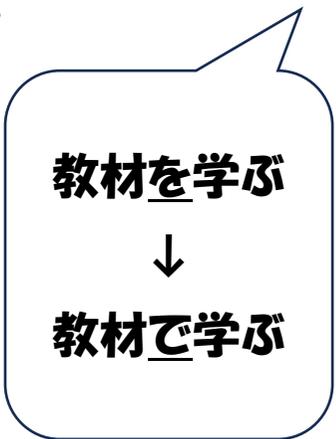
☆学習指導要領における学習内容の扱い



○小学校～中学校における「我が国の言語文化に関する事項」の系統表

中3	中2	中1	小5・6
ア 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむこと。	ア 作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しむこと。	ア 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむこと。	ア 親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章を音読するなどして、言葉の響きやリズムに親しむこと。
イ 長く親しまれている言葉や古典の一節を引用するなどして使うこと。	イ 現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方をと知る。	イ 古典には様々な種類の作品があることを知ること。	イ 古典について解説した文章を読んだり作品の内容の大体を知ったりすることを通して、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

- 〔『小学校学習指導要領（平成二十九年告示） 解説国語編』（文部科学省、平成二十九年）より）
- 〔『中学校学習指導要領（平成二十九年告示） 解説国語編』（文部科学省、平成二十九年）より）



- 従来… 「何を学ぶか」を重視
↳コンテント・ベース
- 現在…
↳コンピテンシー・ベース
- ・「何を学ぶか」⇨ 教科の内容 (教材)
- ・「どのように学ぶか」⇨ 学び方 (言語活動)
- ・「何ができるようになるか」⇨ 資質・能力 (目標) (評価)

☆言語文化の授業実践

○「言語文化」

- ・ 共通必修履修科目 標準単位数 二単位（七十時間） ……一学年での履修が多い
- 「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深めることに主眼」
- ・ 書くこと ……五〜十時間
- ・ 読むこと（近代以降の文章） ……二十時間
（古典） ……四十〜四十五時間 そのうち、半分が漢文分野

○「我が国の言語文化に関する事項」（知識・技能）の一部

- ア 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解すること。
- イ 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解すること。
- ウ 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解すること。

○言語文化における「読むことに関する事項」

（高等学校学習指導要領（平成三十年告示） 解説国語編（文部科学省、平成三十年）より）

○一般的に行われる授業の例

- ・ 訓点のきまり（漢詩のきまり）に従って漢詩を読む
- ・ 漢詩について調べる
- ・ 漢詩を読んで感想を発表する
- ・ 印象に残ったりの情景について話し合う

【国語科における「言語活動」】
言葉による 記録、要約、
説明、論述、話し合い

●実践① 漢詩の翻案・翻訳 井伏鱒二・土岐善麿らの訳を参考に、杜甫詩の訳を試みる単元

- ↓ 読み取った内容を一定のルールに従って訳すことによって、表現に注目させる
- ↓ 多くの人が同じ詩を読んでいる 文化の継承 創作の原動力の基礎

☆古典探究の授業実践

○「古典探究」

- ・ 選択科目 標準単位数 四単位（一四〇時間） ……二・三学年での履修が多い
- 「ジャンルとしての古典を対象とし、自分と自分を取り巻く社会にとつての古典の意義や価値について探究し、生涯にわたって古典に親しめるようにするため、我が国の伝統的な言語文化への理解を深める科目」

- ・ 読むこと（古典） ……一四〇時間のうち、半分が漢文分野

○古典探究における「我が国の言語文化に関する事項」の一部

- ア 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めること。
- イ 古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めること。
- 古典探究における「読むことに関する事項」
（高等学校学習指導要領（平成三十年告示） 解説国語編（文部科学省、平成三十年）より）

●実践② 杜甫の詩について、解釈の違いを整理した上で説明する単元

- ↓ 解釈が分かれる詩を読み、注釈の内容を整理し、多角的、多面的な視点をもつ

●実践③ 杜甫の詩の表現をもとに、詩への理解を深めて論述文を書く単元

- ↓ この単元で学んだことをもとに、同じテーマの他の作品を読む（異なるジャンルも可）
- ↓ 作品そのものの面白さ 多くの技法 多彩な表現 探究活動へ

国語科 「言葉による見方・考え方」

（歴史 時代 心情 人間 人生）

実践① 「言語文化」

単元名：

「漢詩を自分の表現で翻訳してみよう」

1 単元の目標（ねらい）（身に付けさせたい力）

（1）古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。（2）ウ

（2）作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。B（オ）

（3）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 本単元における言語活動

詩の描写より読み取ったことをもとに、井伏鱒二・土岐善麿らの訳を参考にして、杜甫の詩を自分の表現で訳す活動。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	読むことについて、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。B（オ）	訓読のきまりや漢詩に現れる表現を理解し、内容を解釈して自身の解釈をもつとともに、先人の訳を参考にして杜甫の詩を訳すことを通じて、粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 単元の指導と評価の計画

a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

次	学習活動	a	b	c	評価規準（評価方法 等）
1 (1)	○学習の見通しを立てる ・単元の目標について確認する ・学習活動の流れを理解する ・漢詩のきまりや表現の特色について理解する	●			
2 (5)	○教科書記載の詩を学ぶ ・漢詩のきまりや表現の特色について理解する ・それぞれの詩の作者、時代背景等について理解する ・訓読のきまりに従って読むとともに、漢和辞典を用いて詩を訳す	○			a:「記述の分析」定期試験 漢詩のきまりや表現の特色について理解を深めているか、定期試験の記述を分析する 例えば、『精選言語文化』（東京書籍、令和3年）では、王維「鹿柴」、孟浩然「春暁」、王維「送元二使安西」、李白「黃鶴樓送孟浩然之廣陵」、王翰「涼州詞」、杜甫「春望」白居易「香炉峰下、新天山居草堂初成、偶題東壁」等。
3 (1)	○孟浩然「春暁」について、3人の訳の表現上の特色を理解する。 ・グループを作り、それぞれのグループで井伏鱒二、土岐善麿、前野直彬の訳を一つ選び、表現について気付いたことをまとめる ・グループを組み直し、それぞれの訳の特色を紹介する ・詩を訳す上で試してみたいことを書きまとめる		●		a:「記述の点検」ノート 主として、訳詩の特徴を作品の内容や解釈について通してについて自分の考えをもっているか、ノートの記述を点検する 他に佐藤春夫、横山悠太、足立幸代、小津夜景等を紹介してもよい。
4	○杜甫「絶句」「春望」等を漢和辞典を用いて訳した上で、前次に学習した方法を用いて自分の言葉で訳す ・課題となる詩を読み、訳す ・詩の特徴を踏まえて、どのように訳すか構想を立てる ・前次に学んだ方法を参考に、訳し直す ・訳した詩を、詩ごとにまとめGoogleドキュメントやFigJam等に記入する。		○	○	b:「記述の確認」Googleドキュメント(FigJam) 学んだことを参考に、詩の表現の特色を踏まえて訳詩を書いているか、Googleドキュメントの記述を確認する c:「記述の確認」振り返りシート 詩の表現の特色を踏まえて訳詩を書くことについて、粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしているか、振り返りシートを確認する
5	○他の人の書いた訳詩を読み、自身の感想を記述するとともに、訳詩を書き直す ・Google Classroomを使い、他の人の訳詩を読み、感想を書き込む ・他の人の感想や自身で考えたことをもとに訳詩を書き直す ○単元を振り返る			○	c:「記述の分析」振り返りシート 他の人の訳詩や他の人の感想を読む中で、感じたことをもとに、訳詩を書き直そうとしているか振り返りシートを分析する 「言語文化」教科書に収録されている杜甫の詩には、他に「月夜」「登高」「登岳陽樓」

※『精選言語文化』（東京書籍、令和3年）、『精選古典探究』漢文編指導資料①（三省堂、2023）の単元を参考にした

●は指導に生かす評価 ○は成績に残す評価

実践② 「古典探究」

単元名：

「杜甫の詩の解釈読み比べ」

1 単元の目標（ねらい）（身に付けさせたい力）

（1）先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めることができる。（2）エ

（2）古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。A（オ）

（3）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 本単元における言語活動

杜甫の詩について、解釈の違いを整理した上で説明する活動。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。（2）エ	読むことについて、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。A（オ）	様々な人の解釈の内容を理解し、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、他の人の解釈を踏まえて、自分の知見と結び付けて杜甫の詩の内容を説明することを通して、粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 単元の指導と評価の計画

a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

次	学習活動	a	b	c	評価規準（評価方法 等）
1 (1)	○学習の見通しを立てる ・単元の目標について確認する ・学習活動の流れを理解する ・これまでに学習した漢詩を紹介する ・漢詩のきまり等について復習する	●			注は、生徒の状況に合わせて、訓点を施したり、書き下し文にしたり、訳を付けたりする
2 (1)	○張継「楓橋夜泊」の内容を理解し、詩の注釈を複数読む ・詩の作者、時代背景、漢詩のきまりや表現の特色等について理解する ・張継「楓橋夜泊」について内容を理解するとともに、時間的発想的つながりについて、A戸崎充明『箋註唐詩選』、B釈円至『箋註唐賢絶句三体詩法』、C服部南郭『唐詩選国字解』を読み、どのような違いがあるか書きまとめる	○	●		a:「記述の分析」定期試験 漢詩のきまりや表現の特色について理解を深めているか、定期試験の記述を分析する b:「記述の点検」ノート 主として、詩の解釈の違いを理解し、自身の解釈を含めているか、ノートの記述を点検する A起句は明け方の実景、承句以下は昨夜来の情景、B起句から結句まで明け方の情景、Cすべて夜半の情景
3 (1)	○杜甫「旅夜書懷」の内容を理解し、詩の注釈を複数読み、整理する ・内容を理解するとともに、「名豈文章著」について、A服部南郭『唐詩選国字解』、B鈴木虎雄『杜少陵詩集』、C森槐南『杜詩講義』を読み、どのような違いがあるかFigJamによってまとめ、説明する		●		b:「行動の観察」説明 主として、詩の解釈の違いを理解してFigJamによってまとめ、自身の解釈を含めて説明しているか、行動を点検する A人の名声は文学のみによって世にあらわれるものではない、B自分には文学で名をなす才能がない、C自分の本懐は政治の場での活躍であり、文学で名を揚げようと思っていなかったのに
4 (5)	○杜甫「兵車行」の内容を理解し、自身の考えをもった上で、他の人の書いたものを読み合う ・内容を理解するとともに、八句目「行人只云」の指す範囲について考え、理由とともにGoogleドキュメントに記入する ・記入した内容を他の人と説明し合い、その感想を聞く		○	○	b:「記述の分析」Googleドキュメント 根拠のある理由を挙げて、課題について説明しているか、Googleドキュメントの記述を確認する c:「記述の確認」振り返りシート 課題について説明することを通して、自分の知見と結び付けて杜甫の詩の内容を説明することについて、粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしているか、振り返りシートを確認する
5 (1)	○「兵車行」について書かれた注釈書を複数読み、指す範囲が変わることで解釈がどのように変わるのかGoogleドキュメントに書きまとめる ○単元を振り返る			○	c:「記述の分析」振り返りシート 様々な人の解釈の内容を理解し、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにするとともに、他の人の解釈を踏まえて、自分の知見と結び付けて杜甫の詩の内容を理解しているか振り返りシートを分析する 注釈書は、生徒の記述の状況を見て用意するとよい

※松浦友久編『校注 唐詩解釈辞典』(大修館書店、1987)を参考にした

●は指導に生かす評価 ○は成績に残す評価

実践③ 「古典探究」

単元名：

「なめるように読み、考えたことを論述文に書こう」

1 単元の目標（ねらい）（身に付けさせたい力）

- (1) 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めることができる。（1）ウ
- (2) 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価することができる。A（ウ）
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 本単元における言語活動

内容を分析して、技法に気付き、詩への理解を深めて論述する活動。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。	読むことにおいて、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。A（ウ）	詩の構成や展開を理解し、内容を解釈するとともに、表現の特色を根拠として論述文を書くことについて、粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしている。

4 単元の指導と評価の計画

a:知識・技能 b:思考・判断・表現 c:主体的に学習に取り組む態度

次	学習活動	a	b	c	評価規準（評価方法 等）
1 (1)	○学習の見通しを立てる ・単元の目標について確認する ・学びのプランによって学習活動の流れを理解する ・漢詩についてのイメージを説明する				
2 (1)	○王維「送元二使安西」を通して色彩に関する表現や、視点の移動の読み取り方法について理解する ・詩の作者、時代背景、漢詩のきまりや表現の特色等について理解する ・モノの色に着目して、詩に見られる色彩を挙げる ・詩の近景、遠景を追い、視点がどのように変わるのか考える ・理解したことをペアで伝え合う	●			a:「行動の観察」 主として、詩の特色を踏まえて根拠をもって説明しているか、行動を観察する 詩の内容を分析する視点としては他に、「視覚的表現と聴覚的表現」「五感に関する表現」「『動』と『静』に関わる表現」「水平、仰角、俯角等の視線の動き」等。他の詩を用いてもよい
3 (1)	○杜甫「月夜」を通して各句の心情は誰のものか考え、また、感情、情念に関する表現について、描写を手掛かりに読み取る ・句の動作に関わる言葉に着目して、動作主が誰であるのか考える ・各句の表現が誰を表しているのか描写から考える ・杜甫の置かれた状況を理解する ・どのような詩だと考えたのか、順序立てて説明する	●			a:「行動の観察」 主として、詩の特色を踏まえて根拠をもって説明しているか、行動を観察する 「古典探究」教科書に収録されている杜甫の詩には、他に「旅夜書懐」「夢李白」「絶句」「江村」「兵車行」がある。
3 (3)	○杜甫の「登高」「登岳陽樓」「秋興八首其一」「石壕吏」等を一読読み、学習した方法を用いたり、考えたりしたことをもとに論述文を書く ・論述文の書き方を確認する ・詩を一首選んで読み、どこに着目するか考える ・学んだことや考えたことをもとに、根拠となるところを探す ・考えたことを構成し、論述文を書く	○	○	○	a:「記述の確認」 詩の表現を踏まえて詩を読む方法について理解しているか、記述を確認する b:「記述の確認」 詩の表現の特色に着目し、根拠をもって論述文を書いているか、記述を確認する c:「記述の確認」振り返りシート 詩の構成や展開を理解し、内容を解釈するとともに、表現の特色を踏まえて論述文を書くことについて、粘り強く取り組む中で、自らの学習を調整しようとしているか振り返りシートを確認する
5 (1)	○他の人の書いた論述文を読み、自身の感想を記述するとともに、論述文を書き直す ・他の人の書いた論述文に、感想を書いた付箋を貼る ・自身の扱った詩について、専門書や注釈書を読み、自身のものと比較する ・他の人の感想や自身で考えたことをもとに論述文を書き直す ○単元を振り返る			○	c:「記述の分析」振り返りシート 他の人の論述文や他の人の感想、また専門書や注釈書を読む中で、感じたことをもとに、論述文を書き直すようとしているか、振り返りシートを分析する

※赤井益久『漢詩・漢文解釈講座』第二巻(唐詩上)(昌平社、1995)を参考にした

●は指導に生かす評価 ○は成績に残す評価